

序

雄々しかれ、汝エルサレムにて我につきて証をなしたる如く
ローマにても証をなすべし ——新約聖書使徒伝23章11節——

学院は昨年が続いて今年もまた、その姿勢を「前進」にとり、上記の聖句を1976年の標語としてえらんだ。この姿勢はいつになっても変らぬ学院の使命であるからである。仮りに過去90年間の証を、エルサレムに於てたてた証とするなら、次の一区切り、これからの10年間、創立百年を目指しての証をローマに於ける証といえないこともない。

より高度の文化と複雑化する社会の中にもまれながら学院は、そのことが、どんなに困難であっても、変らぬ証をたてねばならない。こうした学院の証の中心を形づくるものが、いくつかあるが、その中の重要なものの一つが、教授方の研究、集録、紀要であることは間違いない。教授する者の祈りと精進がそこに見られるからであり、これが学院を推進してゆくエネルギーであるからである。

執筆と出版の労をとられた方々に、いつもながら、心からの感謝を捧げる次第である。

1975年12月10日

北陸学院短期大学学長

番 匠 鉄 雄